



区内小学生約 230 人が田植え体験！

～田んぼによって大泉地域の風景を復元～

と き	平成 28 年 6 月 11 日 (土) 午前 9 時～12 時 20 分	大泉第一小学校
	平成 28 年 6 月 11 日 (土) 午前 10 時 40 分～12 時	橋戸小学校
	平成 28 年 6 月 14 日 (火) 午前 10 時 20 分～12 時 30 分	大泉北小学校
と ころ	練馬区立大泉橋戸公園 (練馬区大泉町 2-9-34)	

11 日 (土)、14 日 (火) の 2 日間、練馬区立大泉橋戸公園 (大泉町 2 丁目) 内の水田で、周辺の小学校 3 校の児童が田植えを体験した。

水田は、周辺の小学校や地域団体から、地域の風景の復元という強い要望を受けて平成 24 年に区が整備し「橋戸田んぼ」として親しまれている。管理運営は、地域の橋戸水田自主管理会 (会長：篠崎利光) が主体となり行っている。開園以来、毎年、周辺の小学校 3 校の児童が稲作を体験してきた。



▲田植えの様子

当日は、管理会があらかじめ園芸用ポットで育てておいた苗を、児童が田んぼに入って手で植えていく。「苗が倒れないよう田んぼを平らにならしながら植えてね」「足が抜けなくなったら、かかとを少し持ち上げると抜けるよ」など、管理会の方々からアドバイスを受けながら、児童は慣れない泥の中での作業に奮闘した。田んぼから上がった児童からは、「泥が冷たくて気持ちよかった」「印に沿って植えるのが難しかった」と笑顔がこぼれた。

秋には稲刈り体験も行い、収穫したお米を味わう予定。

【橋戸田んぼの稲作風景を小学生が再現！】

練馬区立大泉橋戸公園の「田んぼ」は、園内に残る弁天池の湧水を活用し、かつて白子川流域で行われていた水田を復元整備したもの。水田面積は 230 m² で 6 枚の田んぼに分かれている。平成 24 年度から、周辺の大泉第一小学校、大泉北小学校、橋戸小学校の児童が毎年稲作体験を行ってきた。今年も 11 日に大泉第一小学校 56 人、橋戸小学校 59 人、14 日に大泉北小学校 114 人 (いずれも 5 年生) の児童が田植えを行った。児童は靴下で田んぼに入り、苗が一行に並ぶよう目印に沿って植えていく。泥に足を踏み入れ「冷たい」「転びそう」と初めての体験に戸惑っていた。子どもたちも、田んぼから上がる頃には「ぬるぬるして面白かった」「もう一回やりたい」と目を輝かせ、全員が体験し終わった後に、2 回 3 回と挑戦する児童も見られた。



▲植え方を教えてもらいながら田植えをする児童

【橋戸水田自主管理会とは】

同会は、大泉町近隣の三校 (大泉第一小学校、大泉北小学校、橋戸小学校) の児童に米作りの体験を通じ、学校間の交流と地域コミュニティの醸成に寄与することを目的として、平成 24 年に結成された組織。児童への田植え体験指導をはじめ、除草や水量調整といった水田の全般的な維持管理を行っている。「橋戸の田んぼのことを子どもたちに少しでも知ってもらえれば」との思いで、種まきや田起こし、代かきを実施し、田植え体験に向けて準備を進めてきた。同会副会長は、「子どもたちの笑顔が何よりの楽しみで、励みとなります」と話し、児童が田植えをする様子を眺めていた。



▲代かき